福岡大学病院　麻酔科　臨床研修プログラム

Ⅰ．特　徴

1. 麻酔管理のみならず、術後の集中治療、術後痛の治療、慢性痛、がん性疼痛を含めた痛みの治療など、周術期管理と痛みの治療についての臨床研修が可能である。
2. 医療安全管理を意識した研修を行っている。

Ⅱ．診療科概要

1. 例年8,000例以上の手術症例数があり、約7,000例の麻酔管理を担当している。外科手術を行っているのは、消化器外科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、産婦人科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、歯科口腔外科、救命救急センターである。
2. 外科系集中治療（SICU）4床を管理している。開心術、開胸手術、上腹部手術、重篤な合併症を有する患者の術後管理を行っている。
3. 麻酔科外来では急性帯状疱疹痛、帯状疱疹後神経痛、外傷後の痛み、腰痛などの様々な痛みの治療を行っている。

Ⅲ．研修目標

1. 気道管理、呼吸管理について学ぶ。
2. 急性期の輸液・輸血療法、血行動態管理法について学ぶ。
3. 痛みの治療を学ぶ。
4. 医療の質と安全の管理について学ぶ。

Ⅳ．研修内容

1. 指導医とともに手術患者の術前診察、麻酔管理、術後管理、集中治療、痛みの治療を学ぶ。
2. 1年次研修医は主に全身麻酔、鎮静の症例を指導医と担当する。担当患者の紹介や抄読会を行う。

   2年次研修医は上記に加え、区域麻酔を指導医と担当し、ペインクリニック、緩和ケア診療にも参加する。学会等への参加や症例報告を行う。

Ⅴ．週間スケジュール

1. 月曜日から金曜日までは午前8時00分からカンファレンスが始まる。
2. カンファレンスでは前日の症例報告と当日の手術患者の紹介を行う。
3. カンファレンスでは月曜日、水曜日、金曜日に抄読会を行う。
4. カンファレンスの中で症例検討会、勉強会も行う。
5. 8時30分から担当患者の麻酔管理、病棟業務、外来業務などを行う。

Ⅵ. 当科の医療安全等に係る研修医教育

1. 研修初日に冊子を配布し、以下の内容を説明する。
   a. 麻酔前の患者評価法と麻酔計画の立て方
   b. 機器類（麻酔器、モニター、シリンジポンプ等）の取り扱いと管理
   c. 薬品の使用法と管理法
2. 必須知識に関する問題に回答してもらい、その場で解説する。
3. 研修開始週の金曜日に薬剤師による麻薬取り扱いに関する教育を行う。
4. 毎日 30 分程度、指導医とのディスカッションや教本を用いた教育を行う。
   a. 全身麻酔（吸入麻酔、静脈麻酔）
   b. 筋弛緩薬
   c. 局所麻酔（硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔）
5. シミュレーターを用い、中心静脈カテーテル挿入の研修を行う。
   （研修期間中の午前中に2時間程度）

Ⅶ. 研修プログラム責任者

教　授：秋吉　浩三郎（麻酔科　診療部長）

Ⅷ. 指導医一覧

教　授：秋吉　浩三郎
准教授：重松　研二（手術部）
講　師：楠本　剛
助　教：柴田　志保、岩下　耕平、佐藤　聖子、三股　亮介、
中野　涼子、外山恵美子、平井　規雅、熊野　仁美、
富永　将三、南原菜穂子、今給黎佑理